

# 2023年度事業報告



学校法人 城星学園

# はじめに

学校法人の健全経営とともに充実発展をはかるため、2023年度においては、理事長の「中期および2023年度基本方針(別掲)」に基づいて、各校種が一つになって、学園の建学の精神のもとに教育活動を推進した。また、2023年度は、学園創立70周年を経て新たな歩みを始めた年度であり、AIに代表される時代の変革や少子化の波の中にあつて、学園の教育活動において変革できることと、守るべきことを峻別しながら、教育環境の整備、教育活動のさらなる充実をはかってきた。その過程において創立者ドン・ボスコの「子どもを愛するだけでは足りない、子こどもが愛されていると感じなければならない」という言葉に代表される教育理念を再認識し、その教育理念のもとに、今後も本学園の教育活動を展開していく。

また、外部に対する情報公開とともに積極的な自己点検評価・学校評価が求められており、2023年度においても学園後援会との連携のもと、全保護者対象のアンケートを実施し、貴重なご意見が多数寄せられた。その結果を学園の教育活動に活かしながら、2023年度学校評価としてまとめた上で情報公開するとともに、2024年度に向けてさらに充実した評価活動の実施と教育活動のさらなる充実・推進に繋げていきたい。

## 《中期および2023年度基本方針》

1. ドン・ボスコとマリア・マザレロの教育理念を堅持しながら、日々の教育活動の質をさらに高める。  
(ドン・ボスコとマリア・マザレロの教育活動における *bontà*(親切)、*libertà*(自由)、*allegria*(快活)の重要性に特に着目し、学園の日々の教育活動の中でこれらの具現化を図る。)
2. 園児・児童・生徒・教職員が“Niente ti turbi.”(「何も恐れることはない」)を実感できるような教育環境を創造する。  
(園児・児童・生徒が「VUCA」の時代を生き抜くことを支援するために、それにふさわしい教育方法、施設・設備に関する検討を学園全体として進める。)
3. 学園教職員の多岐にわたる研鑽の結果を園児・児童・生徒らの自主的で積極的な学びのために活かす。  
(サレジアンの実業体との合同研修や相互の見学、協働を通じて各教職員が学びを深めるとともに、園児・児童・生徒同士の交流の機会を増やす。)
4. 学園教職員全体が、学園の未来をともに築き支えていくという意識に基づき行動する。  
(他校種の教育活動や組織運営上の工夫への関心を高め、校種の枠を超えて互いに学び合う。各校種と総合スポーツ教育センターとの緊密な連携により、学園全体で「オラトリオ」としての使命を果たす。)
5. 保護者・同窓生・姉妹校の教職員・教会関係の人びと・地域社会の人びととの「アシステンツァ」を深める。  
(学園からのより活発な情報発信を通じて「城星ファミリー」の輪を広げ、共感を高めるとともに、「城星友の会」の運営体制を整備する。)

## 《2023年度取り組み事例》

- ・新校舎建築プロジェクトの推進(2028年3月竣工予定)。
- ・2025年度からのヴェリタス城星学園高等学校共学化に向けての準備。
- ・「学びの森」プロジェクトによる高等学校での探究型学習の強化と進路指導の充実。
- ・高等学校海外留学制度の充実。
- ・カトリック大学、有名私立大学との高大連携による進路指導の充実。
- ・総合スポーツ教育センターの開設と小学校放課後学童保育「オラトリオ」の運営、ならびに同センタースタッフによる高校水泳部の指導。
- ・ドン・ボスコ子ども未来センター開設(教育相談のほか、多面的サポートの実施)。
- ・「城星友の会」行事の企画・運営、大阪市中央区役所との包括連携に基づく各種イベントの開催と、それらを通じての開かれた学園づくり。
- ・園庭における野菜栽培を通じての幼稚園の食育推進。
- ・保育環境のさらなる充実。

次頁より、各校種の教育活動等について報告する。

## 1. 法人の概要

**建学の精神** : 城星学園は、カトリックの精神に基づき、創立者聖ヨハネ・ボスコ（ドン・ボスコ）の教育理念である『道理』と『信仰』と『愛』に根ざした教育法によって、園児、児童、生徒の全人間教育に励み、神を敬い、人を愛し、自然を大切にする『良心的な人間、よき社会人』を育成することを使命とする。

**所在地** 大阪府大阪市中央区玉造2丁目23番26号

**法人成立の年月日** 昭和28年3月25日

### 学校設置認可年月日

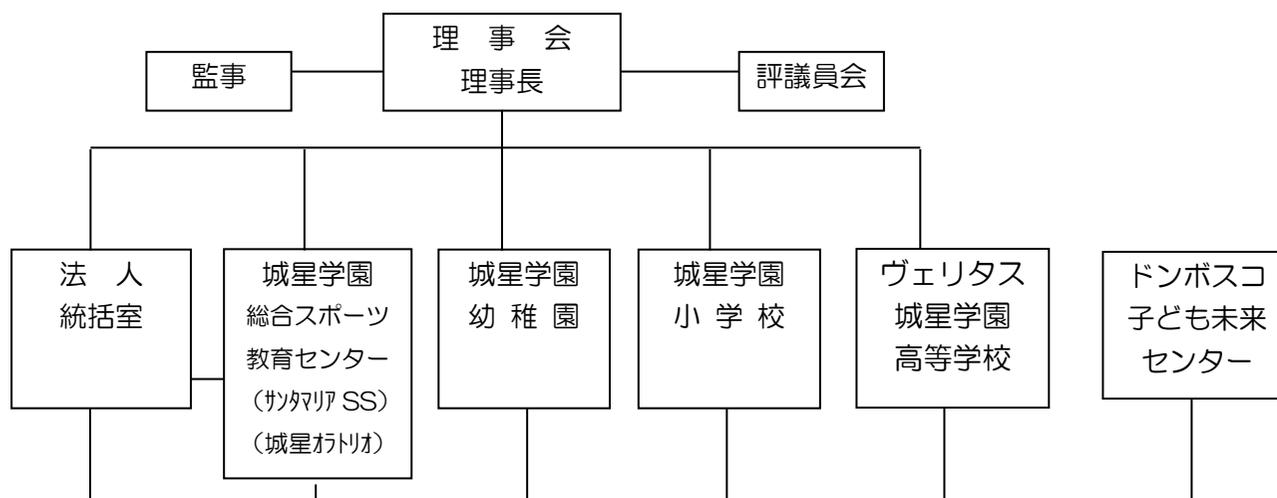
幼稚園 昭和28年3月16日

小学校 昭和28年3月16日

中学校 昭和34年2月27日

高等学校 昭和37年1月14日

### 学校法人 城星学園 組織図 (2024年4月1日現在)



1) 設置学校及びクラス数

(2024年度)

城星学園幼稚園	城星学園小学校		城星学園高等学校(全日制普通科)
3年保育 3クラス	1年 4クラス		1年 Allegro コース、Vivace コース混合 2クラス
2年保育 3クラス	2年 4クラス		2年 Allegro コース、Vivace コース混合 2クラス
1年保育 3クラス	3年 4クラス		3年 Allegro コース 1クラス、Vivace コース1クラス
計 9クラス	4年 4クラス		計 6クラス
	5年 3クラス		
	6年 3クラス		
	計 22クラス		

(2023年度)

城星学園幼稚園	城星学園小学校	城星学園中学校	城星学園高等学校 (全日制普通科)
3年保育 3クラス	1年 4クラス	—	1年 Allegro コース、Vivace コース混合 2クラス
2年保育 3クラス	2年 4クラス	—	2年 Allegro コース 1クラス、Vivace コース 1クラス
1年保育 3クラス	3年 4クラス	3年 1クラス	3年 Allegro コース 2クラス、Vivace コース 1クラス
計 9クラス	4年 3クラス	計 1クラス	計 7クラス
	5年 3クラス		
	6年 3クラス		
	計 21クラス		

2) 定員および在籍者数(各5月1日現在)

年 度	幼稚園 (定員 280)		小学校 (定員 600)		中学校 (定員 180)		高等学校 (定員 450)		計	増減 (対前年度)
	クラス	現員	クラス	現員	クラス	現員	クラス	現員	現員	
2024	9	266	22	665	-	-	6	115	1,046	△14
2023	9	274	21	639	1	17	7	130	1,060	△17

3) 役員等・教職員

役員等:

年 度	理事	監事	評議員
2024	8人	2人	17人
2023	7人	2人	16人

教職員:

(5月1日現在) (人)

年 度	幼稚園			小学校			中学校			高等学校			法人統括室			総合スポーツ教育センター			計
	専任	常勤	非常勤	専任	常勤	非常勤	専任	常勤	非常勤	専任	常勤	非常勤	専任	常勤	非常勤	専任	常勤	その他	
2024	12	5	10	28	11	2	-	-	-	15	5	18	8	2	2	5	2	28	153
	計 27			計 41			-			計 38			計 12			計 35			
2023	13	6	10	27	11	5	1	1	0	14	5	15	10	1	2	5	2	40	168
	計 29			計 43			計 2			計 34			計 13			計 47			

4) 役員会の開催

① 理事会・評議員会

理 事 会: 2023年 5月 2023年 8月 2023年10月 2023年11月 2024年 2月 2024年 3月	評議員会: 2023年 5月 2023年10月 2024年 2月 2024年 3月
---	--

② 監 査: 2023年 5月

## 2. 募集計画及び教育計画等

( )は内部進学者数。

年度	区 分	幼稚園			小学校	高等学校
		3年保育	2年保育	1年保育		
2025	新入生募集人員	90	若干名	—	約100	140
2024	新入生募集人員	84	若干名	—	100	75
	志願者数	127	6		246	49
	受験者数	103	6		235	46
	合格者数	95	4		145	46
	入学者数	84	4		122(46)	35(14)
2023	新入生募集人員	84	若干名	—	100	75
	志願者数	149	7		236	43
	合格者数	104	4		146	43
	入学者数	89	4		118(37)	37(17)

## 学校法人城星学園 中期行動計画-2023年度のふりかえり

### 建学の精神:

城星学園は、カトリックの精神に基づき、創立者聖ヨハネ・ボスコ(ドン・ボスコ)の教育理念である『道理』と『信仰』と『愛』に根ざした教育法によって、園児、児童、生徒の全人間教育に励み、神を敬い、人を愛し、自然を大切にする『良心的な人間、よき社会人』を育成することを使命としています。

### 教育理念:

「教育は心の問題であり、青少年を愛するだけでは足りません。青少年が愛されていると感じられるように彼らと共に生きる」

### 【中期方針・2023年度部門別行動計画及びその評価】

《次頁以下のとおり。》

## 法人統括室

中期方針	2023 年度方針	中期行動計画	2023 年度行動目標	ねらい（評価のポイント）	年度評価
1.ドン・ボスコとマリア・マザレロの教育理念を堅持しながら、日々の教育活動の質をさらに高める。	ドン・ボスコとマリア・マザレロの教育活動における bontà(親切)、libertà(自由)、allegria(快活)の重要性に特に着目し、学園の日々の教育活動の中でこれらの具現化を図る。	教育活動の質の向上に向けた後方支援活動を充実していく。	(1)城星学園歴史コーナーを設置する。	歴史の周知と伝統の継承	△
			(2)各校種の行事への積極支援を行う(運動会、遠足、入試など)。	校種間の連携強化	○
			(3)ドン・ボスコ、マリアマザレロ関連研修を実施する。	教育理念の深化	○
2.園児・児童・生徒・教職員が”Niente ti turbi.”(「何も恐れることはない」)を実感できるような教育環境を創造する。	園児・児童・生徒が「VUCA」の時代を生き抜くことを支援するために、それにふさわしい教育方法、施設・設備に関する検討を学園全体として進める。	安全管理の徹底と管理体制の維持充実、多様な活動が機能的に行える施設設備整備と運営組織づくりを行う。	(1)防災・防犯訓練及び教職員安全管理研修を実施する。	南海トラフ大地震等への対応能力向上	○
			(2)スポーツ複合施設建設を計画する。	教育環境の整備・充実	△
			(3)大阪大司教区、大阪女学院との防災協力体制を構築する。	地域防災への協力	△

3.学園教職員の多岐にわたる研鑽の成果を園児・児童・生徒らの自主的で積極的な学びのために活かす。	サレジアンの実業体との合同研修や相互の見学、協働を通じて各教職員が学びを深めるとともに、園児・児童・生徒同士の交流の機会を増やす。	サレジアンスクール教職員としての意識を高める。	(1)他のサレジアンスクールとの合同研修を実施する。	サレジアンスクール教職員のあり方の再確認	△
			(2)姉妹校見学ツアーを実施する。	姉妹校間の連携強化と情報収集	○
			(3)後援会と連携強化する。	各関連行事の充実	○

4.学園教職員全体が、学園の未来をともに築き支えていくという意識に基づき行動する。	他校種の教育活動や組織運営上の工夫への関心を高め、校種の枠を超えて互いに学び合う。各校種と総合スポーツ教育センターとの緊密な連携により、学園全体で「オラトリオ」としての使命を果たす。	社会教育施設としての機能を兼ね備えた総合スポーツ教育センターの施設設備、スタッフ及び活動内容の充実を図る。	(1)オラトリオのプログラムを充実させる。	より有意義な活動内容にする	○
			(2)オラトリオスタッフ育成計画の作成と関連資格の取得を促す。	スタッフの資質向上	○
			(3)オラトリオ運営生徒ボランティアを募集する。	教育系を志望する生徒への動機付け	△

5.保護者・同窓生・姉妹校の教職員・教会関係の人びと・地域社会の人びととの「アシステツァ」を深める。	学園からのより活発な情報発信を通じて「城星ファミリー」の輪を広げ、共感を高めるとともに、「城星友の会」の運営体制を整備する。	城星友の会等を通じた城星ファミリーと地域との交流	(1)城星友の会の発足に伴う学内外へのお知らせを行う。	学園の認知度アップ	△
			(2)城星友の会行事を地元へ開放する。	地元との連携強化	△
			(3)城星ファミリー交流行事を実施する。	親睦をはかる	△
6.教育計画		2023年度学童保育「城星オラトリオ」の安定した運営と地域との連携により、城星学園がなくてはならない存在とするための行動を行う。	総合スポーツ教育センター職員全員が園児・児童・生徒に寄り添える指導者の育成を目指す。	良き社会人育成の「鏡」となる。	○
			城星ファミリーとして各校種のサポートを積極的に行う。	協力し合える関係を構築する。	○
7.募集計画		学園全体の広報活動を展開していく中で、園児・児童・生徒の募集に寄与していく。	(1)総合スポーツ教育センタースタッフにより、渉外活動を活発に行う。	生徒募集のため地域との連携を行う。	○
			(2)総合スポーツ教育センターのインスタグラムにより広告料を抑え各校種の募集を行う。	地域に情報を発信していく。	○

# 幼稚園

中期方針	2023 年度方針	中期行動計画	2023 年度行動目標	ねらい（評価のポイント）	年度評価
1.ドン・ボスコとマリア・マザレロの教育理念を堅持しながら、日々の教育活動の質をさらに高める。	ドン・ボスコとマリア・マザレロの教育活動における bontà(親切)、libertà(自由)、allegria(快活)の重要性に特に着目し、学園の日々の教育活動の中でこれらの具現化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ドン・ボスコやマリア・マザレロの教育理念を理解し、実践に生かせるように教員研修に努める。</li> <li>・bontà(親切)、libertà(自由)、allegria(快活)の重要性を認識し、保育活動の中に意識付ける。</li> </ul>	カトリック精神に基づいた保育活動の実践と、さらなる深化充実に向け園内外の研修を学期に1回以上持つ。	サレジアンシスターズとしての自覚と意識改革を前提とした日々の行動変容の出現	○
			「予防教育法」の理解を深めるための研修内容を吟味し、日々の保育活動に活かすことができているかどうかの振り返りを行う。	学園の特長の発信による保護者との信頼関係構築かつ子供の育成への寄与	○
2.園児・児童・生徒・教職員が”Niente ti turbi.”(「何も恐れることはない」)を実感できるような教育環境を創造する。	園児・児童・生徒が「VUCA」の時代を生き抜くことを支援するために、それにふさわしい教育方法、施設・設備に関する検討を学園全体として進める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・VUCA の時代を生き抜くために子どもたちに必要な能力を理解し、その能力育成のために必要な教育環境の整備に努める。</li> <li>・安心安全な生活を目指すうえで、様々な危機管理意識を醸成する。</li> </ul>	主体性や創造性、協調性などを育むための教育内容や教育環境を他園などを参考にしながら、取り入れる。	さらに子ども一人ひとりの思いや願いを大切にした教育内容への変容	△
			様々な防災・防犯訓練を実施し、教職員・園児の危機管理意識の向上を図る。	教職員・園児の危機管理に対する意識改革と日常の行動変容	○
			業務の ICT 化を進め、指導計画のデータ化を進める。	時間外勤務の削減、働き方改革の推進	△
3.学園教職員の多岐にわたる研鑽の成果を園児・児童・生徒らの自主的で積極的な学びのために活かす。	サレジアンの事業体との合同研修や相互の見学、協働を通じて各教職員が学びを深めるとともに、園児・児童・生徒同士の交流の機会を増やす。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園内外の研修の深化充実を図り、獲得したスキルの伝達講習を実践する。</li> <li>・育てたい子ども像を共有し、それを目指す園内研修テーマを策定し実践に活かす。</li> </ul>	カトリック園の研修や外部の研修に積極的に参加し研修を深める。全教職員のスキル獲得を目指して、伝達講習会をもつ。	園児一人ひとりが神のまなざしのもとで誠実の行動し善を選び取れる人格形成の基礎作り	○
			主体性や自己肯定感を育む保育内容に照準を合わせた園内研修テーマを策定し公開保育を伴った園内研修をもつ。	園児の主体性や協調性の醸成のための保育内容の改革	△

4.学園教職員全体が、学園の未来をともに築き支えていくという意識に基づき行動する。	他校種の教育活動や組織運営上の工夫への関心を高め、校種の枠を超えて互いに学び合う。各校種と総合スポーツ教育センターとの緊密な連携により、学園全体で「オラトリオ」としての使命を果たす。	・園児が、他校種の児童・生徒と交流できる機会を設ける。 ・他校種、スポーツセンターなどとの連携の形を模索し、教職員間の意見交換の場を設定する。	各校種の行事や日常の活動(保育内容)の中で積極的に交流の場を企画する。	他校種との交流による親近感やあこがれの心情の醸成 内部進学の拡充	△
			教職員間の意思疎通を図るべく校種の垣根を超えた場づくりに努める。	各校種の課題を共有し協働的な解決方法の模索	○
5.保護者・同窓生・姉妹校の教職員・教会関係の人びと・地域社会の人びととの「アシステツァ」を深める。	学園からのより活発な情報発信を通じて「城星ファミリー」の輪を広げ、共感を高めるとともに、「城星友の会」の運営体制を整備する。	城星学園を取り巻く様々な支援組織・団体との連携を深める。	学園、幼稚園としての社会的立場を自覚し、社会に貢献する一員として教育活動に務める。体験保育などを入園希望に限定せず広く募集する。	城星ファミリーの一員としての自覚と責任感の獲得	△
6.教育計画		子どもの発達段階に応じた、主体性や、自己肯定感を育むための教育内容を構築する。	教育要領に則り、子どもの主体性や個性を尊重した、子どもにも教員にとっても、無理のない保育計画を立案する。	園児の協調性や責任感の醸成、自ら考え正しく行動できる力と他者との関係における解決力の習得	○
			子どもにとって価値あるものにするために行事や日々の保育内容の精選。見直しの実行。	日々の教育活動を通じた保護者の理解と信頼の獲得	○

7.募集計画		カトリック園として、教育方針を明確にし、園としての特長をアピールした園児募集を実践する。	園の魅力や教育方針を様々な機会（幼児教室。保護者会など）や情報ツールを用いて積極的に発信する。	新入園児(3歳児クラス)3クラス90名の確保	△
			他校種（特に小学校）との連携を強化し、学園内での進路選択の拡充につなげる。	保護者理解の深化、コンスタントに30名前後の進学	○

# 小 学 校

中期方針	2023 年度方針	中期行動計画	2023 年度行動目標	ねらい（評価のポイント）	年度評価
1.ドン・ボスコとマリア・マザレロの教育理念を堅持しながら、日々の教育活動の質をさらに高める。	ドン・ボスコとマリア・マザレロの教育活動における bontà(親切)、libertà(自由)、allegria(快活)の重要性に特に着目し、学園の日々の教育活動の中でこれらの具現化を図る。	(A)ミッションスクールとしての意義をより強く認識する。	達成可能な個々の目標設定のもと、理想の児童像である「光の子」を育成するため、宗教研修を活性化し、カトリック教育に対する理解や教員同士の信頼関係の深化を図る。	無条件の愛情によるミッションスクールとしての存在意義の認識	○
		(B)ミッションスクールとしての特性を具現化する。	ドン・ボスコ、マリア・マザレロを初めとする諸聖人の生き方に倣い、その教えの通り社会のよきパン種となれるように具体的な目標を立て行動に移せるよう援助する。	「ファッチョイオ、ひと針ひと針に愛をこめて」の精神に支えられた、良心に基づいた意識の変化と行動の変容	○
		(C)保護者の理解度を向上させる。	保護者勉強会、ドン・ボスコ勉強会を実施し、ドン・ボスコ、マリア・マザレロが生きた時代の社会情勢や風土をもとに、その教育についての理解を深める。	カトリック精神、ドン・ボスコ、マリア・マザレロに対する保護者の意識高揚と教育共同体としての行動の変化	○

2.園児・児童・生徒・教職員が”Niente ti turbi.”(「何も恐れることはない」)を実感できるような教育環境を創造する。	園児・児童・生徒が「VUCA」の時代を生き抜くことを支援するために、それにふさわしい教育方法、施設・設備に関する検討を学園全体として進める。	(A)各学年にふさわしい安全教育・健康教育を実施する。	学年別各種教室を実施する。コロナ感染症等予防教育を中心に安全で安心な登下校指導に重点を置く。年4回以上のいじめアンケートの実施, 教員・保護者による通学路巡回指導の実施, 避難訓練の実施を計画する。	児童及び教員の安心・安全な生活に対する意識高揚、具体的な行動の確認	△
		(B)危機管理研修を実施する。	心肺蘇生法研修を実施する。新1年生対象に災害時児童引渡し訓練を実施する。また、防災、防犯訓練を実施する。	週1回の校舎内運動場の安全点検及びけが0デー(毎週金曜日)の意識化	○
		(C)教育施設、教育設備、教育環境の充実を図る。	放送設備、wifi 環境の充実を図り、児童の教育環境を向上させ教育内容の充実を図る。	アナログ教育を中心としたデジタル機器活用による学習の深化	○

3.学園教職員の多岐にわたる研鑽の成果を園児・児童・生徒らの自主的で積極的な学びのために活かす。	サレジアンの実業体との合同研修や相互の見学、協働を通じて各教職員が学びを深めるとともに、園児・児童・生徒同士の交流の機会を増やす。	(A)アシステンツァを励行する。	「いつもどこでも子どもと共に」の実践を図る児童が愛されていると感じる指導の在り方、言葉のかけ方を考える。	優しさと自由に根ざした教育共同体としての信頼関係の確立	○
		(B)サレジオ一貫教育を強化を図る。大阪星光学院及びカトリック系中学校との連携を深める。	合同研修会、ほしゼミ、チャレンジゼミ、特別選抜制度を継続維持し実施する。	サレジオ一貫教育の推進と進路指導の充実	△
		(C)発達段階や個別能力に応じた教科研究を実施する。	児童・保護者のニーズに応えるべく、学年や教科主体での研究活動の強化とともに全体レベルでの深化を図る。場合によっては、Zoom 配信動画配信等による教育活動の実施を行う。	自主自律の学習意欲の向上	○

4.学園教職員全体が、学園の未来をともに築き支えていくという意識に基づき行動する。	他校種の教育活動や組織運営上の工夫への関心を高め、校種の枠を超えて互いに学び合う。各校種と総合スポーツ教育センターとの緊密な連携により、学園全体で「オラトリオ」としての使命を果たす。	(A)校種間の連携を強化する。	授業参観や研究授業、校種間教員派遣等を通して、幼・小・中高の教員の連携を強化する。	幼小中高教員の連携強化	△
		(B) 宗教的行事、文化的行事、体育的行事等の共同実施の方向性を探る。	カトリックミッションスクールの総合学園としての在り方を模索し、多方面からの保護者の学園理解を図る。	総合学園としての連携強化	△
		(C)「城星オラトリオ」の始動に際して学校教育との連携を図る。	ドン・ボスコの予防教育法に根差した、かつ保護者のニーズに合致した学童保育の実施に協力する。	サレジオ家族の一員としての意識強化	○
5.保護者・同窓生・姉妹校の教職員・教会関係の人びと・地域社会の人びととの「アシステツァ」を深める。	学園からのより活発な情報発信を通じて「城星ファミリー」の輪を広げ、共感を高めるとともに、「城星友の会」の運営体制を整備する。	(A)保護者と寄り添いながら共通理解を図る。	児童の発達段階に応じて話題を共有しあい、成長を確かめ合う機会をより多く持つ。適時 Zoom 配信による懇談会の実施を考える。	家族的な雰囲気、教育共同体の一員としての自覚の促進	○
		(B) 小学校同窓会 (FDDB) との連携を図る。	同窓会会員の結束を図るとともに、城星フェスタや学校行事、日常生活の必要に応じて教育活動に理解、協力を願う。	城星ファミリーとしての同窓会との連携	○
		(C) 地域社会の人々との関わりを深める。	児童会活動等を中心に登下校や利用交通機関等でお世話になっている方々に挨拶や感謝の気持ちを伝える活動に取り組む。	自主的かつ積極的参加によるサレジオ精神の実践化	△

6.教育計画	(A)ドン・ボスコの予防教育法に基づく信頼関係の構築	「強いられてするのではなく、すべてのことに愛をもって行おう」の実践に精励し、教職員や保護者との分かち合いを行う。	カトリックミッションスクールとしての使命の実践	△
	(B)宗教教育, 宗教科道徳を再構築し, ミッションスクールとしての使命を果たす。	全教員による全教科の中での宗教教育について, 研修, 研鑽を積み, 教育実践を行う。	カトリック的雰囲気溢れた学園づくり。	○
7.募集計画	(A)学校の魅力を発信する。	保育所・幼稚園・幼児塾への管理職、入試広報担当者と若い教員での訪問を行い、心と学びの根っこを育てる教育の発信を行う。また、私立小学校フェアやカトリック小学校フェアに積極的に参加する。	カトリックミッションスクールとしての発信、2期制の実施及び新入生定員の確保	○
	(B)説明会・オープンスクール等を実施する。	学校説明会2回、オープンスクール2回、zoom配信による説明会、個別説明会を実施する。また、各幼稚園、塾への案内及び近隣塾への小規模説明会を実施する。また、入試速報会を行う。	宗教教育をベースにした心技体バランスのとれた児童を育成する学校であることと教育改革の進捗状況の周知	△

## 中学校・高等学校

中期方針	2023 年度方針	中期行動計画	2023 年度行動目標	ねらい（評価のポイント）	年度評価
1.ドン・ボスコとマリア・マザレロの教育理念を堅持しながら、日々の教育活動の質をさらに高める。	ドン・ボスコとマリア・マザレロの教育活動における bontà(親切)、libertà(自由)、allegria(快活)の重要性に特に着目し、学園の日々の教育活動の中でこれらの具現化を図る。	ドン・ボスコやマリア・マザレロの教育理念に加え、フランシスコ・サレジオや教皇フランシスコの教説についての学びを深め、その成果をカリキュラムの中で具体化する。	(1)アシステンツァの心を育て、家庭で、学校で、通学途中での弱者への小さな親切を実践する。	bontà の実践	○
			(2)「今のこの時間」を充実したときとして能動的・主体的に過ごそうとする心の育成を目指す。	libertà の実践	○
			(3)ファッチョイオの精神で、喜んで何事にも積極的に取り組む行動力を育成する。	allegria の実践	○
2.園児・児童・生徒・教職員が”Niente ti turbi.”(「何も恐れることはない」)を実感できるような教育環境を創造する。	園児・児童・生徒が「VUCA」の時代を生き抜くことを支援するために、それにふさわしい教育方法、施設・設備に関する検討を学園全体として進める。	外部の資源を可能な限り活用しながらきめ細やかな生徒対応を行い、生徒の自己肯定感・自尊感情を向上させる。	(1)ミマモルメで的確な情報を発信する一方、小さな対話や面談で、心の繋がりを大切にする。	心の繋がり	○
			(2)新しい学校作りやルール作りに生徒の主体的な参加を促し、大切なものを見失わないヴェリタス城星学園を創造する。	新しい学校	△
			(3)過去の教育相談事例などの記録を匿名データとして整理し、学園教職員間でアシステンツァの意識を高め、その情報を共有する。	アシステンツァのための情報共有	△

3.学園教職員の多岐にわたる研鑽の成果を園児・児童・生徒らの自主的で積極的な学びのために活かす。	サレジアンの実業体との合同研修や相互の見学、協働を通じて各教職員が学びを深めるとともに、園児・児童・生徒同士の交流の機会を増やす。	教職員の研修や自己研鑽を積極的に支援するとともに、教職員間の研究会・親睦会の機会を増やす。	(1)生徒の希望や豊かさの実現のため「学びの森」講座の積極的な刷新をする。	生徒の主体的学び	○
			(2)園児・児童・生徒同士の交流を実現するため、中高生の積極的な企画立案を促す。	中高生からの発信	○
			サレジアンファミリーの学校間交流を積極的に実現する	パン種(原動力)になろう	△
4.学園教職員全体が、学園の未来をともに築き支えていくという意識に基づき行動する。	他校種の教育活動や組織運営上の工夫への関心を高め、校種の枠を超えて互いに学び合う。各校種と総合スポーツ教育センターとの緊密な連携により、学園全体で「オラトリオ」としての使命を果たす。	学園が持つ資源の効率的配分・利用を教職員全体で検討する。	(1)「オラトリオとしての学校」のあるべき姿を求めて、積極的に全体研修会や交流会をもつ。	教職員の交流	△
			(2)総合スポーツ教育センターとの連携を実現する。	スポーツを楽しむ	△

5.保護者・同窓生・姉妹校の教職員・教会関係の人びと・地域社会の人びととの「アシステンツァ」を深める。	学園からのより活発な情報発信を通じて「城星ファミリー」の輪を広げ、共感を高めるとともに、「城星友の会」の運営体制を整備する。	「城星ファミリー」との関係を深め、教育活動面での具体的な協働の可能性を模索する。一方で、本校がリカレント教育の場としての役割を果たすことをめざす。	(1)70周年記念行事等で培われた「城星ファミリー」の親密性を一層大切に押し進める。	城星ファミリーの活性化	○
			(2)「城星友の会」との連携をもとに保護者の交流の場を作り、保護者に寄り添う「大人の学びの時間」を作る。	保護者へのアシステンツァ	△
			(3)姉妹校や教会関係、地域社会の人びととの情報交換を活発に行い、未来志向の積極的意見交換の場を作る。	現実を見て動く	△
6.教育計画		自主的学びのできる生徒を育てるために、与えすぎの教育からの脱却をめざす。	(1)生徒の自主性を常に啓発し、主体的学びの喜びを体感させ、自立する心を育てる。	〈今、生き生き〉の場の創造	○
			(2)「学びの森」や生徒会、その他の活動を通して、生徒が積極的にチームや仲間を得て目標に向かって協働し、その成果発表の場を設定する。	なんでもやってみよう	△
7.募集計画		広報活動の再設計を行い、学校のイベントへの参加者を増やす。	(1)内部中学からの進学最終年となるので、全力を挙げてヴェリタス城星学園の教育をアピールし、受験生確保に臨む。	受験生の確保	△
			(2)あらゆる媒体や手段を用いて、入試広報活動を推進し、受験生75名の実現を目指す。	受験生の確保	△

### 3. 施設設備計画（報告）

教育環境整備の一環として、次の工事等を実施した。（500万円以上のもの）

工事・設備等名称		執行金額（円）
①	中学棟女子トイレ改修工事	5,280,000

## 財務状況（報告）

令和5年度、各校種の適正な学費の設定、人件費比率の改善、各経費の見直し等を行い、当期利益がプラスとなった。今後、2025年度より高校共学化とともに高校生徒数の安定確保を目指しながら収支の改善・安定を求めていく。

